

3PL事業(海外)

1976年のシンガポール進出以降、海外における事業拡大を続けており、2022年3月末時点で世界28の国と地域(日本を除く)に、435拠点の海外ネットワークを構築しています。

中期経営計画「LOGISTEED2024」においてはアジア圏の、さらに2030年度にはグローバルの3PLリーディングカンパニーをめざす方針のもと、多様なサービスメニューでお客様のサプライチェーン戦略をサポートしていきます。

2021年度の実績

■ 業績(海外)

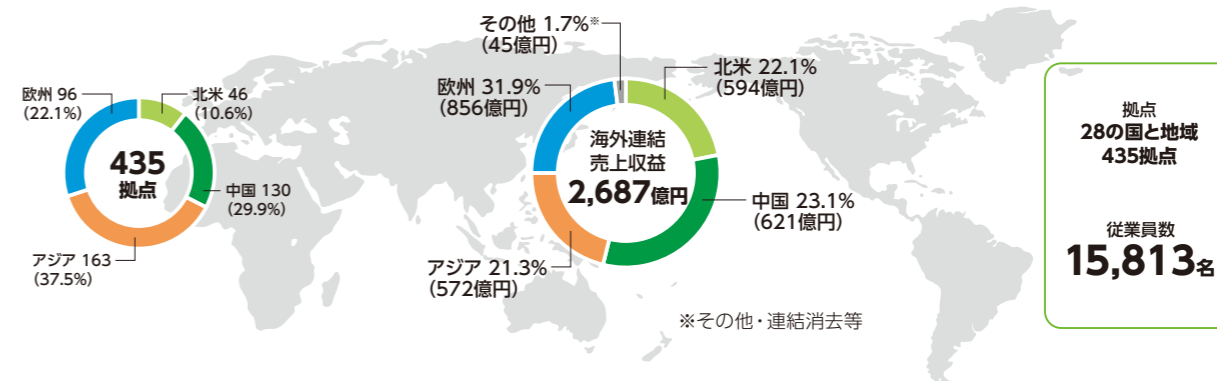
売上収益:
2,687億円
(前年度比 +825億円)

営業利益:
123.4億円
(前年度比 +27.4億円)

■ 受注・立上

受注: **7件** 立上: **9件**

海外地域別売上収益・拠点数(2021年度)



拠点
28の国と地域
435拠点

従業員数
15,813名

中期経営計画LOGISTEED2024の重点取り組み事例

欧州 インターモーダル事業の広域化

トルコのMars Logistics Group社は、事業活動における「自然の尊重」の考えのもと、環境に優しいインターモーダル輸送(複合一貫輸送)や鉄道輸送への投資を行っています。

2021年には約1千万ユーロを投じて90台の鉄道ワゴンを購入し、ハルカル(トルコ)-コリン(チェコ)間のサービスを新たに開始するとともに、ドイツとチェコ向けのインターモーダル直行便の運行数を大幅に増やしました。

インターモーダル輸送や鉄道輸送は、サステナブルで大量輸送に適した信頼性の高いサービスであり、同社はこれらの事業拡大を通じて、環境に優しいソリューションの提供を進めています。



現地法人社長メッセージ

当社は2012年にトルコ-イタリア-ルクセンブルク間のインターモーダル輸送を開始後、トルコ-ドイツ間、トルコ-チェコ間の直行便を開通し、環境に配慮した輸送への投資を拡大してきました。2021年の自社保有ワゴンへの大規模投資は、当社の環境ソリューションの新たな1ページを開くものであり、「LOGISTEED2024」においてもグリーンロジスティクスへの投資を継続すべく、さらなる新ルートの開発をめざしていきます。

Garip Sahillioğlu
取締役社長
Mars Lojistik Grup
Anonim Sirketi



北米 シェアードミル克蘭事業のさらなる拡大

米国のCarter Logistics社は、自動車部品物流を中心に事業を展開し、生産部品のクロスドックや保守部品・生産部品の輸送におけるトップのサービスプロバイダーとしてお客様から評価を受けています。

同社のコア事業であるシェアードミル克蘭事業は、輸送における積載効率の最大化、配送効率の向上、CO₂排出量の削減を同時に実現でき、「LOGISTEED2024」の重点施策を体現するビジネスモデルのひとつです。サプライチェーンのコストが高騰する中、こうしたビジネスモデルへの需要は高まるものと想定し、同社のシェアードミル克蘭事業の成長を通じて、お客様のニーズに応えていきます。



現地法人社長メッセージ

北米のサプライチェーンにおけるコストは、ドライバーや物流機材の不足を受けて高騰しています。当社は主要なお客様と長年にわたり良好なパートナーシップを結んでおり、今後もお客様の理解のもと、良質で価値のあるサービスを最適なコストで提供し続けることで、事業成長の継続と中期経営計画の達成をめざします。

Jessica P. Warnke
取締役社長
Carter Logistics, LLC



中国 自動化・省力化の加速による次世代物流への進化

中国では物流事業を取り巻く環境が大きく変化しており、人手不足やサプライチェーンの混乱等の課題を抱えています。

当社グループの中国法人では、中国が開発で先行する自動化・省力化設備を積極的に導入することで、社会課題に対応した、人手に頼らない次世代の物流現場をいち早く実現することをめざしています。既に搬送や流通加工等の工程を中心に新技術の実装を開始しており、その成果を確認しています。

あわせて、DXによる潜在課題の可視化等の高付加価値サービスを提供することで、物流の持続可能性向上とサプライチェーンの強靱化に注力していきます。



担当役員メッセージ

中国で大型の3PL・フォワーディング事業を運営する当社グループにとって、コロナ禍による事業活動への影響を受けたことは、強靱で持続可能な物流サービスの重要性を改めて認識する契機となりました。今後は自動化・省力化・DXへのさらなる投資と充実化を進め、当社の強みである現場力を一層発揮し、安全・品質・生産性・労働環境の向上による事業基盤の強靱化を図ると同時に環境負荷の低減にも注力し、お客様と社会に貢献していきます。

川北 剛史
中国代表
日立物流(中国)
有限公司 社長



アジア インド、タイ、インドネシア、マレーシアほかでの投資拡大

当社グループは、今後も堅調な経済成長が見込まれるアジア地域での投資をさらに強化する方針です。重点国のひとつであるインドでは、ムンバイに約9万㎡の用地を取得し、2022年4月に倉庫の建設を開始しました。インドでは引き続き、チェンナイ・デリー・バンガロールでも自家倉庫を建設し、国際・国内輸送とあわせたワンストップサービスの提供体制を構築していきます。

そのほか、タイでの倉庫建設と自動化設備の導入、インドネシアでの拠点拡充、マレーシアでのコールドチェーン需要拡大に対応した冷蔵・冷凍倉庫増築と車両の強化等の投資を計画しています。



担当役員メッセージ

めざす姿である「アジア圏3PLリーディングカンパニー」の実現に向け、成長戦略とバックキャスト思考の具体的な打ち手を、着実かつ迅速に実行します。また、アフターコロナ時代を見据え、世界の生産地から最大消費市場へと進化するアジアを中心に、高度化・複雑化するお客様のグローバルサプライチェーンへの最適解を提供すべく、さまざまな業種・業界のパートナーとの価値協創も追求していきます。

本田 隆一
執行役
アジア代表
(日立物流(アジア)取締役社長)
(日立物流(タイ)取締役会長)
(Eternity Grand Logistics
Public Co., Ltd.取締役会長)

